

学力向上研究指定校事業第2回連絡協議会・報告資料

平成28年度の取組の概要

学 校 名	大和町立大和中学校	主な取組教科	国語・数学・社会・理科・英語	
研 究 主 題	主体的に学習に取り組む生徒の育成 一分かる喜びを味わわせる授業づくりを通して		研究年次	2 / 3年次

1 本年度の主な学力向上の取組と成果

学力向上の取組	成 果	評価の根拠
学習の見通しをもたせたり、学習意欲を喚起したりする課題設定の工夫や授業の終結に学びの振り返りを行った。	多くの生徒が授業のめあてや課題を確認し、学習の見通しをもつことができるようになり、学びの振り返りにつなげることができた。	学習意識調査結果から、大部分の生徒が課題を確認して授業に臨んでいる。特に3年生の数値が前回より5%向上した。
生徒の学習意欲を喚起するためにICTやデジタル教科書、自作教材を効果的に活用した。	生徒の学習への意欲付けを図ることができ、更に課題解決や学習理解の有効な支援となった。	学習意識調査結果から、大部分の生徒がICTを使った授業は分かりやすいと答えている。特に3年生の数値が9%向上した。
課題解決の過程において、多様な考えに気付かせたり、自分の考えを見つめさせたりする手法として学び合いを取り入れた。	課題解決の過程において、生徒が様々な考えを共有することができ、自分の思考を広げたり深めたりすることができた。	中間公開に参加した先生方から、課題解決の過程において、学び合いが効果的だったという意見を多くいただいた。
「主体的に学習する集団づくり」を目指し、総合質問紙調査を用いて生徒の状況について把握・分析した。	学級毎に分析を行い、その結果を活用することで、授業の際の配慮事項や指導につなげることができた。	「学習習慣」を示す指標において、3学年で5月と12月の比較で2.5%の上昇が見られた。また、「学習の絆」を示す指標では、全国標準値を各学年で0.6%～3.5%上回った。

2 残された課題と今後の方向性

課 題	改善の方向性
学び合いを取り入れる際には、教師側から目的や内容、方法について、生徒に明確に伝えていく必要がある。	学び合いを行う上での留意点や展開について、学校全体で吟味したものを生徒に明確に示していく。
各教科の授業で活用している教師自作のワークシートを日々の家庭学習にどのようにリンクさせていくかを吟味する必要がある。	各教科部会において活用方法を吟味し、授業と家庭学習の双方をリンクさせたワークシートの作成に努めていく。